

To Our Shareholders ～株主の皆さまへ …P1

今秋リリースいたしました  
新ブランド「MIRAIGATE」により、  
ホールの集客や店舗運営を強力に支援いたします。

ダイコク電機最前線 **Fade in** …P3

- 「DK-SIS白書2006」発刊のお知らせ
- 名証IRエキスポ2007・株式投資サマーセミナー2007
- DKセミナー&MIRAIGATE  
先行発表会を全国で開催
- セグメント別の状況 …P5



KI-01(Kiravia)



VL-10





代表取締役社長 栢森雅勝

### ●当中間期の経営成績

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、企業収益が好調に推移するなか、設備投資の増加に支えられ緩やかな回復基調が続いておりますが、個人消費はおおむね横ばいとなっております。

当社が携わるパチンコ業界におきましては、顧客であるパチンコホールでは、営業面で大当たり確率の甘い遊技機の増設や、全国的に広がりつつある1円パチンコの様な貸玉料の見直しにより新たな遊技客を取り込もうという動きも見られ、ホール経営はますます多様化しております。

また、平成19年6月から9月にかけて大量のパチスロ遊技機を新基準機へ入れ替える時期を迎えたため、出店計画が抑えられ、例年に比べて同期間の新店件数は半減し、パチンコ遊技機の販売も低調でありました。

このような市場環境のなか、情報システム事業におきましては、情報公開製品であるプレジャービジョンやDK-SIS（パチンコホール向け会員情報提供サービス）は引き続き高い評価を受けましたが、新店件数の減少による影響は厳しいものと

## 今秋リリースいたしました新ブランド「MIRAIGATE」により、ホールの集客や店舗運営を強力に支援いたします。

なりました。制御システム事業におきましては、グループ総合力を活かして開発を強化し、当社ユニットの評価は高まりつつありますが、当中間連結会計期間はパチスロ遊技機の動向に対応してパチンコ遊技機の発売が抑えられ、ユニットの機種数は前年同期と比べ減少しました。アミューズメントコンテンツ事業におきましては、携帯電話ゲームにおいて、NTTドコモの直感ゲームにいち早く参入できましたが、コンシューマゲームの不振により厳しい状況となりました。

この結果、当中間連結会計期間の業績は、売上高152億28百万円（前年同期比38.0%減）、営業損失9億39百万円（同37億25百万円減）、経常損失6億3百万円（同35億90百万円減）、中間純損失9億73百万円（同25億91百万円減）となりました。

### ●財政状態

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ47億70百万円減少の394億97百万円となり、その内訳として流動資産が227億73百万円、固定資産が167億24百万円であります。また、負債は168億53百万円、純資産は226億44百万円であり自己資本比率は57.3%（前連結会計年度末比2.7ポイント上昇）となりました。

当中間連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ31億28百万円減少の89億76百万円となりました。

各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

営業活動により使用した資金は、23億73百万円（前中間連結会計期間は2億16百万円の獲得）となりました。その主な要因は当中間連結会計期間において税金等調整前中間純損失の額及び仕入債務の減少の額が大きかったことによりです。

投資活動により得られた資金は、1億75百万円（前中間連結

会計期間は1億62百万円の使用）となりました。その主な要因は当中間連結会計期間においては保険積立金の満期による収入があったことによりです。

財務活動により使用した資金は、前中間連結会計期間と比べ2億18百万円減少の9億30百万円となりました。その主な要因は当中間連結会計期間において配当金の支払額が減少したことによりです。

### ●通期の見通し

パチンコ業界におきましては、下期も、パチンコホールでは、パチンコ重視の経営への転換が迫られる一方で、金融環境の厳しさから積極的な新規出店が抑えられることが予想されます。

情報システム事業におきましては、今秋にリリースいたしました新ブランドMIRAIGATEが、パチンコホールの集客や店舗運営を強力に支援するものとして市場から期待されておりますが、新店件数の減少による影響は避けられそうになく、売上高は212億円（前期比21.4%減）、制御システム事業におきましては、下期の市場投入予定機種が多く売上高は前期を上回る190億円（同6.7%増）、アミューズメントコンテンツ事業におきましては、コンシューマゲームの不振により売上高は22億円（同8.9%減）の見込みとなりました。

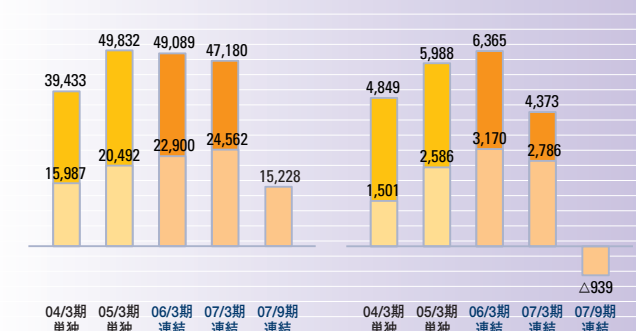
この結果、当連結会計年度の業績は、売上高424億円（同10.1%減）、営業利益15億70百万円（同64.1%減）、経常利益19億60百万円（同60.3%減）、当期純利益5億70百万円（同149.7%増）の見込みとなりました。

#### 通期の見通しに関する注意事項

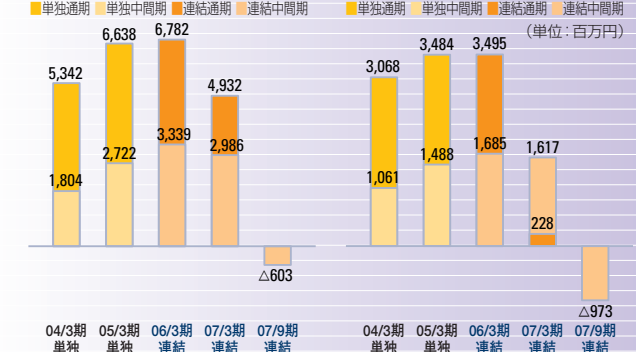
本冊子に記載されている市場予測や業績見通しは、当社の経営陣が現在有効な情報に基づき判断したもので、その実現には潜在的リスクや不確実性を含んでおり、さらに業績に影響を与える要因はこれに限定されるものではありません。したがって、諸要因の変化により実際の業績は記載事項と大きく異なる結果となる可能性があることをあらかじめご承知おきください。

### 主要財務データ……………Key Financial Data

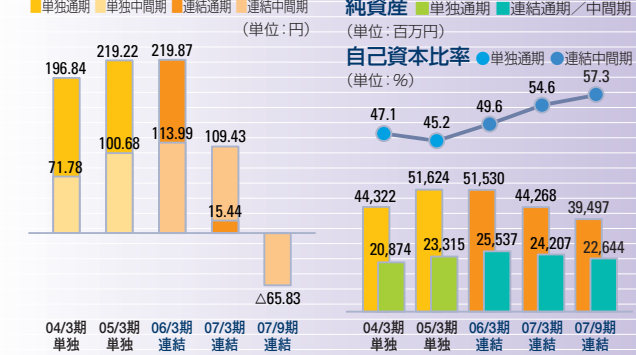
売上高 (単位:百万円) 営業利益又は損失(△) (単位:百万円)  
 ■単独通期 ■単独中間期 ■連結通期 ■連結中間期



経常利益又は損失(△) (単位:百万円) 中間(当期)純利益又は純損失(△) (単位:百万円)  
 ■単独通期 ■単独中間期 ■連結通期 ■連結中間期



一株当たり中間(当期)純利益又は純損失(△) (単位:円) 総資産純資産 (単位:百万円) 自己資本比率 (単位:%)  
 ■単独通期 ■単独中間期 ■連結通期 ■連結中間期



## 「DK-SIS白書2006」発刊

本書のご購入を希望される方は、  
株式会社遊技通信社のHPからお買い求め  
くださいますようお願いいたします。

定価 20,000円(税込)  
株式会社遊技通信社「出版物」URL  
[http://www.yugitsushin.jp/  
publication.php](http://www.yugitsushin.jp/publication.php)

## 名証IRエキスポ2007・ 株式投資サマーセミナー2007



### その他の主な個人投資家向けIR活動

- 5/31 証券教育広報センター主催  
IRセミナー  
(名古屋市)
- 7/26 証券教育広報センター主催  
IRセミナー  
(大阪市)
- 8/30 野村証券 会社説明会  
(札幌市)

このたび当社は「DK-SIS白書2006」を発刊いたしました。本書は創刊の「DK-SIS白書2003」から数えて4刊目となり、創刊時の約1.5倍となる2,321の加入パチンコホールから送信いただいた遊技機70万台分のデータを日々集計・分析し、平成18(2006)年1月から12月まで1年分の膨大な情報をまとめたものです。

本書では、平成18(2006)年を「パチスロ5号機に対する期待と現実のギャップを直視した年であった」と締めくくっております。パチスロでは規制により4号機の撤去期限間際にもかかわらず、4号機から4号機への入替が活発化し、5号機の導入が進まなかったことを見ても、パチスロ依存体質からの脱却がいかに難しかったかが分かります。一方パチンコでは甘デジや京楽産業、株式会社の機種が躍進した年でもありました。

パチンコホール経営企業の皆さまが、本書をもとに昨年1年間のデータを紐解き、経営するホールの現状と比較・分析することで、経営の一助としていただくことを願っております。



平成19年7月13日(金)・14日(土)、名古屋市中企業振興会館(吹上ホール)で開催された「名証IRエキスポ2007」にブース出展いたしました。両日とも梅雨と台風が重なる悪天候ではありましたが、2日間で主催者の予想を上回る6,200名もの来場がありました。

当社ブースで行いました「ミニ会社説明会」にも大勢の個人投資家の皆さまの参加をいただき、パチンコ業界の現状や当社の業績見通しなどに熱心に耳を傾けていただきました。説明会終了後には当社経営陣に様々な角度からご質問をいただき、株主や個人投資家の皆さまとのコミュニケーションの場としてたいへん有意義な出展となりました。また、当社が実施いたしましたアンケートでは2,200名もの皆さまにご協力いただき、その結果9割を超える皆さまから当社への投資に対して前向きであるという回答をいただきました。貴重なご意見、ご協力ありがとうございました。

平成19年9月8日(土)には、名古屋市中東区の中電ホールにて行われました名古屋証券取引所主催の「株式投資サマーセミナー2007」にも参加いたしました。当社の説明に約300名の方のご参加をいただき、社長の栢森雅勝から事業内容や業績等の説明をさせていただきました。

ご来場いただきました株主や投資家の皆さま、誠にありがとうございました。今後も積極的かつ継続的なIR活動により、当社の知名度・認知度の向上に努力してまいりますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。



## DKセミナー& MIRAIGATE 先行発表会を全国で開催



### ●DKセミナー

「ただ今、業界構造激変中! ~5号機時代の構造変化を進化と捉えよ~」  
「進化を導く営業戦略! ~成功へのカギはホール環境の進化にあり~」

平成19年8月28日(火)の浜松会場を皮切りに東京・大阪・名古屋など全国8会場で開催いたしました。今回のセミナーは「パチスロ完全5号機時代突入におけるファンの動向予測と、業績変化への対応策」をメインテーマに、DK-SISデータを基にした当社ならではの分析、予測、提案を皆さまにご説明いたしました。パチンコホールにおける今後の課題といたしまして、「情報公開」「貯玉再プレイ」「パチンコ新台導入時戦略」の3点を挙げ、変化に対応するホール環境の構築を当社製品と結びつけて提案することで、業績向上へ向けてトータルサポートできる当社ならではの強みをアピールいたしました。

当セミナーを受講された皆さまの真剣さは過去に例の無いものであり、それは業界全体に対する危機感やパチスロ5号機時代に対する業績不安感の現れであり、また、これらに対処できるダイコク電機の提案力に対する期待の高さの現れであると感じております。今後もご期待に応えるべく全社一丸となって注力してまいります。

### ●MIRAIGATE先行発表会

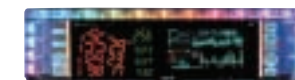
MIRAIGATE先行発表会では、昨年2月の展示会で発表いたしましたコンセプトを具体化した製品とサービスについて、現在当社システムをお使いいただいておりますパチンコホール関係者の皆さま向けに先行発表いたしました。

今回の展示会は「密な商談や提案ができる場としての展示会」をテーマとし、新ホールコンピューティングシステム「C II」及びMIRAIGATEランプ「VL-10」「IL-A1」「KI-01(Kiravia)」の詳細な説明やコンテンツライブラリーなどのMIRAIGATEサービスについて、各ホールの皆さまの現状に合わせた提案をさせていただきました。その結果、その場で「C」から「C II」へのアップグレードを決めていただけたホールも多数あり、MIRAIGATEへの高い評価と期待を実感いたしました。

## New Products 新製品情報

### MIRAIGATEランプ 「VL-10」「IL-A1」「KI-01(Kiravia)」

当社はMIRAIGATEを冠した製品としてMIRAIGATEランプ3種類を発売いたしました。呼出ランプ「VL-10」は多様化する遊技台特性、ユーザー層に最適な情報を表示できるような「見やすさ」と「情報量」を両立させたランプであり、「IL-A1」はこれまでの製品の長所を受け継ぎ進化した、豊かな表現力が持ち味の呼出ランプです。「KI-01(Kiravia)」はその名の通り煌びやかなイルミネーションでホールを華やかに演出するトップランプであり、MIRAIGATEランプと完全にリンクいたします。MIRAIGATEブランドの製品・サービスは今後も継続的に市場投入してまいりますのでご期待ください。



呼出ランプ VL-10

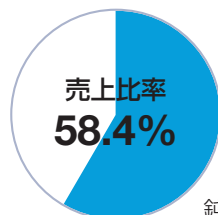


呼出ランプ IL-A1



トップランプ  
KI-01(Kiravia)

## 情報システム事業



当中間連結会計期間において、顧客であるパチンコホールでは、パチスロ遊技機の新基準機への大量の入れ替えが行われ、出店計画など設備投資に慎重な姿勢をとる状況がうかがえました。また、これに加え大型チェーン店企業の倒産が影響し、ホール経営企業の金融環境が厳しくなったことが設備投資を更に鈍化させることとなりました。

このような市場環境のなか、当事業はパチンコを営業の軸としたホールの収益構造変化を支援するため、情報公開製品プレジャービジョンや高機能ランプIL-90C IIを使ったファンの来店誘導やパチンコ遊技機の演出提案を行い、また、「DK-SIS」とホールコンピューティングシステム「C」による、遊技機の変化に沿った有効活用の提案に努めてまいりましたが、パチンコホールの設備投資状況は厳しいものとなりました。

以上の結果、当事業の売上高は88億91百万円（前年同期比40.0%減）、営業利益5億62百万円（同83.1%減）となりました。



## プレジャービジョン PV-55(R) II

ファンが求める情報とファンに伝えたい情報を効果的に結びつけた新しい情報公開ツール。サンド型のタッチパネルLCDで、過去のデータから本日のデータまで出玉推移グラフや大当たり発生履歴、ベスト台データなどグレードアップした多彩なデータがご覧いただけます。

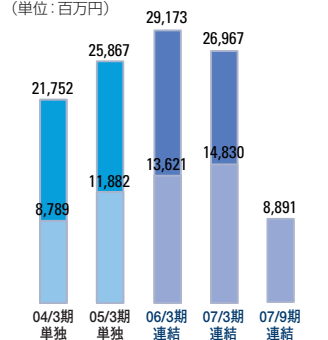


## ホールコンピューティングシステム「C」

パチンコホールの台管理・景品管理・顧客管理・映像管理・情報公開システムの総合営業管理を行い、パチンコファンの来店誘発の演出とセキュリティ強化に着目したホールコンピュータシステムです。台データ管理機能は従来の基本性能を継承し、新しく柔軟性と拡張性を実現しました。

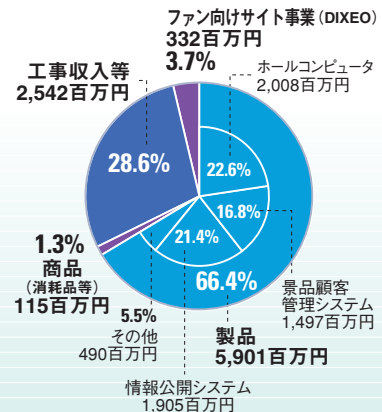
## ●情報システム事業売上高

■単独通期 ■単独中間期 ■連結通期 ■連結中間期  
(単位：百万円)

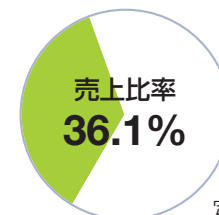


## ●情報システム事業売上高構成比

(百万円未満は切捨て)

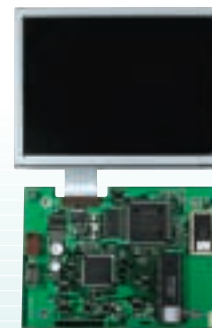


## 制御システム事業



当中間連結会計期間における遊技機市場は、設置有効期限の切れるパチスロ遊技機を撤去し、それに代わる新基準のパチスロ遊技機への投資が優先的に行われ、パチンコ遊技機への投資は低調となりました。また市場での評価が一部機種に偏る傾向が顕著になりました。このような市場環境のなか、多くの遊技機メーカーで市場投入予定のパチンコ遊技機の見直しが行われたため、当事業では上期に販売を予定していた機種が下期にずれ込み、製品販売においては32億2百万円（前年同期比43.5%減）、商品販売においては販売台数の減少により22億92百万円（同18.0%減）となりました。

以上の結果、当事業の売上高は54億95百万円（同35.1%減）、営業利益37百万円（同96.1%減）となりました。



## 表示ユニット

パチンコ遊技機のゲーム内容を表現する部分で、ハードウェアとそれに搭載されるプログラムから構成されます。



## 制御ユニット

基本動作をつかさどるハードウェアとそれに搭載されるプログラムから構成され、パチンコ遊技機の心臓部といえます。

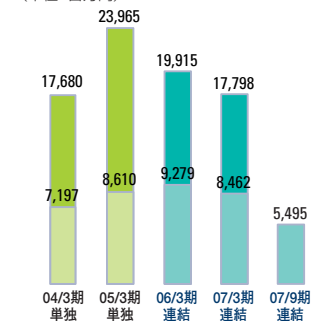


## 商品 (部品)

パチンコ遊技機に使用される液晶パネル、スイッチ、ソレノイドなどのオートメーションパーツの仕入販売をしております。

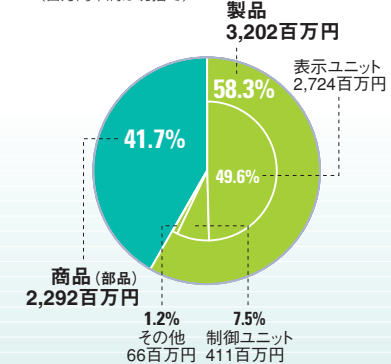
## ●制御システム事業売上高

■単独通期 ■単独中間期 ■連結通期 ■連結中間期  
(単位：百万円)

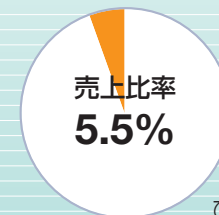


## ●制御システム事業売上高構成比

(百万円未満は切捨て)



## アミューズメントコンテンツ事業



当中間連結会計期間におけるゲーム市場は、新型の家庭用ゲーム機の普及が進んでおりますが、依然として携帯用ゲーム機市場が大きな比重を占めました。

このような状況のもと、携帯電話ゲームにおいては、新技術を導入したNTTドコモの直感ゲームにいち早く参入でき、今後変化していく携帯電話の新たな分野へアミューズメントコンテンツを活かしていく可能性が広がっております。コンシューマゲームにおいては、プレイステーション3本体の普及が伸びず、予定していた販売本数が大きく落ち込むこととなりました。

以上の結果、当事業の売上高は8億41百万円（前年同期比33.7%減）、営業損失4億47百万円（同71.1%増）となりました。

## 中間連結貸借対照表 (要旨)

科目	当中間期	前中間期	前期
	2007年9月30日現在	2006年9月30日現在	2007年3月31日現在
<b>資産の部</b>			
流動資産	22,773	30,366	26,415
固定資産	16,724	21,012	17,853
有形固定資産	7,050	7,604	7,324
無形固定資産	1,591	3,897	1,714
投資その他の資産	8,082	9,510	8,813
資産合計	39,497	51,379	44,268
<b>負債の部</b>			
流動負債	16,394	24,926	19,564
固定負債	458	557	497
負債合計	16,853	25,484	20,061
<b>純資産の部</b>			
株主資本	22,613	25,863	24,178
資本金	674	674	674
資本剰余金	680	680	680
利益剰余金	21,260	24,509	22,824
自己株式	△0	△0	△0
評価・換算差額等	5	8	7
少数株主持分	25	23	21
純資産合計	22,644	25,895	24,207
負債純資産合計	39,497	51,379	44,268

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

## 中間連結損益計算書 (要旨)

科目	当中間期	前中間期	前期
	2007年4月1日から 2007年9月30日まで	2006年4月1日から 2006年9月30日まで	2006年4月1日から 2007年3月31日まで
売上高	15,228	24,562	47,180
売上原価	10,616	15,836	31,125
売上総利益	4,612	8,726	16,055
販売費及び一般管理費	5,551	5,940	11,681
営業利益又は損失(△)	△939	2,786	4,373
営業外収益	405	271	692
営業外費用	69	71	133
経常利益又は損失(△)	△603	2,986	4,932
特別利益	3	10	50
特別損失	215	48	2,524
税金等調整前中間(当期)純利益又は純損失(△)	△815	2,948	2,458
法人税、住民税及び事業税	64	1,556	2,066
法人税等調整額	89	△209	203
少数株主利益又は損失(△)	4	△16	△40
中間(当期)純利益又は純損失(△)	△973	1,617	228

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

## 中間連結キャッシュ・フロー計算書 (要旨)

科目	当中間期	前中間期	前期
	2007年4月1日から 2007年9月30日まで	2006年4月1日から 2006年9月30日まで	2006年4月1日から 2007年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△2,373	216	4,220
投資活動によるキャッシュ・フロー	175	△162	△120
財務活動によるキャッシュ・フロー	△930	△1,148	△2,607
現金及び現金同等物に係る換算差額	0	△0	0
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	△3,128	△1,095	1,493
現金及び現金同等物の期首残高	12,105	10,611	10,611
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	8,976	9,516	12,105

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

## 中間連結株主資本等変動計算書 (要旨)

当中間期 2007年4月1日から2007年9月30日まで	株主資本					評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計			
2007年3月31日残高	674	680	22,824	△0	24,178	7	21	24,207
当中間連結会計期間中の変動額								
剰余金の配当	—	—	△591	—	△591	—	—	△591
中間純損失	—	—	△973	—	△973	—	—	△973
株主資本以外の項目の当中間連結会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	△2	4	2
当中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	△1,564	—	△1,564	△2	4	△1,562
2007年9月30日残高	674	680	21,260	△0	22,613	5	25	22,644

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

## 中間貸借対照表 (要旨)

科目	当中間期	前中間期	前期
	2007年9月30日現在	2006年9月30日現在	2007年3月31日現在
<b>資産の部</b>			
流動資産	21,276	28,158	24,959
固定資産	16,908	20,955	17,913
有形固定資産	7,005	7,498	7,219
無形固定資産	1,531	1,602	1,630
投資その他の資産	8,370	11,854	9,063
資産合計	38,184	49,113	42,873
<b>負債の部</b>			
流動負債	14,537	22,725	17,931
固定負債	300	327	311
負債合計	14,838	23,052	18,243
<b>純資産の部</b>			
株主資本	23,341	26,051	24,622
資本金	674	674	674
資本剰余金	680	680	680
利益剰余金	21,987	24,698	23,268
自己株式	△0	△0	△0
評価・換算差額等	5	8	7
純資産合計	23,346	26,060	24,630
負債純資産合計	38,184	49,113	42,873

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

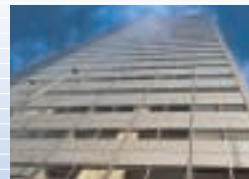
## 中間株主資本等変動計算書 (要旨)

当中間期 2007年4月1日から2007年9月30日まで	株主資本							評価・換算差額等 その他有価証券 評価差額金	純資産合計		
	資本金	資本剰余金 資本準備金	利益剰余金	利益剰余金 その他利益剰余金			自己株式			株主資本合計	
				別途積立金	特別償却準備金	繰越利益剰余金					利益剰余金 合計
2007年3月31日残高	674	680	30	20,000	2	3,236	23,268	△0	24,622	7	24,630
当中間会計期間中の変動額											
中間期の特別償却準備金取崩	—	—	—	—	△1	1	—	—	—	—	—
剰余金の配当	—	—	—	—	—	△591	△591	—	△591	—	△591
中間純損失	—	—	—	—	—	△690	△690	—	△690	—	△690
株主資本以外の項目の当中間会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	△2	△2
当中間会計期間中の変動額合計	—	—	—	—	△1	△1,280	△1,281	—	△1,281	△2	△1,283
2007年9月30日残高	674	680	30	20,000	1	1,956	21,987	△0	23,341	5	23,346

(単位:百万円、百万円未満は切捨て)

(2007年9月30日現在)

●商号	ダイコク電機株式会社 DAIKOKU DENKI CO., LTD.
●創業	1964年12月
●設立	1973年 7月
●資本金	6億7千4百万円(発行済株式総数14,783,900株)
●本社	名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル2階
●従業員数	(単独)446名 (連結)684名
●事業内容	パチンコホール向けコンピュータシステムの開発・製造・販売 パチンコ・パチスロ遊技機用ユニットの開発・製造・販売
●役員	取締役会長 小山 晴 久 代表取締役社長 栢 森 雅 勝 代表取締役副社長 栢 森 秀 行 代表取締役専務 栢 森 健 健 常務取締役 岩 根 節 雄 取締役 伊 藤 茂 年 取締役 平 原 正 義 取締役 山 下 陽 陽 取締役 根 本 弘 弘 取締役 堀 田 昌 郎 取締役 國 保 徳 丸 常勤監査役 山 崎 健 二 郎 常勤監査役 伊 東 幹 夫 監査役 田 中 正 雄 監査役 敷 田 稔 稔 監査役 村 橋 泰 志
(注) 1.	取締役 堀田昌郎氏、國保徳丸氏は社外取締役であります。
2.	監査役 田中正雄氏、敷田稔氏、村橋泰志氏は社外監査役であります。



本社



本部事業所

●事業所一覧

本 社	〒450-8640	名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル TEL(052)581-7111(代表)
本部事業所	〒480-0395	春日井市坂下町1丁目875 TEL(0568)88-7111
高蔵寺事業所	〒487-0014	春日井市気噴町1丁目2番地 TEL(0568)51-7111
春日井事業所	〒480-0304	春日井市神屋町1番26 TEL(0568)88-7771
TOKYO デザインスタジオ	〒169-0072	東京都新宿区大久保1丁目3番21号 新宿TXビル

●拠点一覧

北日本支店	〒980-0014	仙台市青葉区本町二丁目2番3号 鹿島広業ビル
・札幌営業所	〒001-0011	札幌市北区北十一条西四丁目1番地44 ベルエアプラザ
・盛岡出張所	〒020-0045	盛岡市盛岡駅西通二丁目9番1号 マリオス
関 東 支 店	〒110-0005	東京都台東区上野七丁目2番10号 上野駅前第一生命ビル
・茨城営業所	〒305-0032	つくば市竹園二丁目2番地4 第2・ISSEIビル
・北関東営業所	〒330-6022	さいたま市中央区新都心11番地2 明治安田生命さいたま新都心L.A.タワー
・新潟出張所	〒950-0925	新潟市中央区弁天橋通1丁目2番39号 VMビルディング
中 部 支 店	〒480-0304	春日井市神屋町1番26
・金沢出張所	〒920-0027	金沢市駅西新町3丁目9番26号
・松本出張所	〒390-0852	松本市大字島立399番地1 滴水ビル
西日本支店	〒532-0003	大阪市淀川区宮原四丁目1番14号 住友生命新大阪北ビル
・岡山営業所	〒700-0927	岡山市西古松一丁目1番26号 オム第IIビル
・高松出張所	〒761-8071	高松市伏石町795番地1 丸忠IIIビル
九 州 支 店	〒812-0016	福岡市博多区博多駅南二丁目1番9号 ヤマエ博多駅南ビル
・広島営業所	〒730-0004	広島市中区東白島町14番15号 NTTクレド白島ビル
・宮崎出張所	〒880-0801	宮崎市老松一丁目3番3号 松屋ビル

●関係会社

**連結子会社**  
DIXEO株式会社、元気株式会社、元気モバイル株式会社、DO株式会社

**関連会社**  
株式会社ラビス

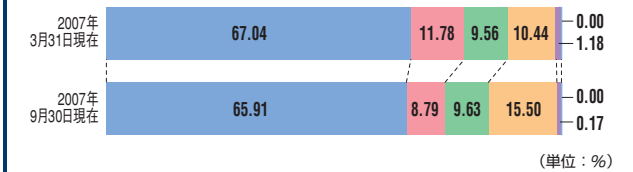
(2007年9月30日現在)

●株式状況

発行可能株式総数	66,747,000株
発行済株式総数	14,783,900株
株主数	3,649名

●所有者別株式分布状況

	2007年9月30日現在		2007年3月31日現在	
■個人・その他	9,744,685株	3,432名	9,911,139株	3,756名
■金融機関	1,299,600株	31名	1,741,100株	34名
■その他国内法人	1,423,200株	70名	1,413,600株	76名
■外国人	2,292,000株	92名	1,544,000株	91名
■証券会社	24,275株	23名	173,921株	31名
■自己名義株式	140株	1名	140株	1名
合計	14,783,900株	3,649名	14,783,900株	3,989名



●持株数別株式分布状況

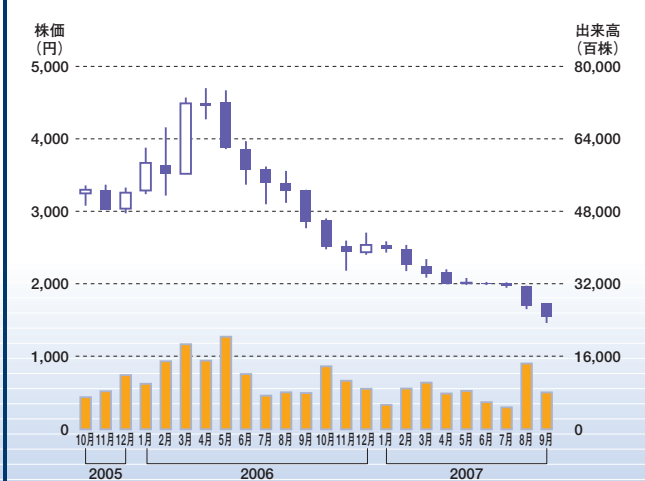
	2007年9月30日現在		2007年3月31日現在	
1単元未満	390株	25名	260株	17名
1単元以上5単元未満	396,500株	2,366名	436,821株	2,615名
5単元以上10単元未満	251,321株	428名	269,980株	457名
10単元以上50単元未満	1,102,199株	679名	1,215,870株	744名
50単元以上100単元未満	339,750株	49名	323,323株	48名
100単元以上500単元未満	1,623,100株	78名	1,848,706株	87名
500単元以上1,000単元未満	484,350株	7名	554,100株	7名
1,000単元以上5,000単元未満	1,968,900株	8名	1,308,100株	5名
5,000単元以上	8,617,250株	8名	8,826,600株	8名
合計	14,783,760株	3,648名	14,783,760株	3,988名

(注) 1. 2007年9月30日現在の持株数別株式分布状況には、自己名義株式1名140株を含んでおりません。  
2. 2007年3月31日現在の持株数別株式分布状況には、自己名義株式1名140株を含んでおりません。

●大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
栢 森 雅 勝	1,885,650	12.75
栢 森 健	1,771,500	11.98
栢 森 秀 行	1,041,100	7.04
財団法人栢森情報科学振興財団	750,000	5.07
栢 森 寿 恵	737,250	4.99
栢 森 新 治	737,150	4.99
栢 森 隆	712,500	4.81
メロンバンクトリートリー クライアツ オムニバス	660,000	4.46
栢 森 美 智 子	626,000	4.23
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	487,300	3.29
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505019	316,900	2.14
ダイコク電機従業員持株会	290,300	1.96
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	188,300	1.27
株式会社みずほ銀行	150,000	1.01
メロンバンクノントリーティー クライアツ オムニバス	122,200	0.82
株式会社三菱東京UFJ銀行	110,000	0.74
アービシーテクノロジーインバスターサービストラスト、ロンドンレディングアカウント	95,100	0.64
メザントラストカンパニー(エイイエーション)サブアカウントアメリカンクライアント	78,200	0.52
ドリーム	68,700	0.46
ステートストリートバンクアンドトラストカンパニー 505025	64,600	0.43

●株価及び出来高の推移



## 株主メモ

- **事業年度** 4月1日から翌年3月31日
  - **定時株主総会** 6月下旬
  - **基準日**

定時株主総会	3月31日
期末配当	3月31日
中間配当	9月30日

その他必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
  - **株主名簿管理人** 東京都港区芝三丁目33番1号  
中央三井信託銀行株式会社
  - **同事務取扱場所** 〒460-8685  
名古屋市中区栄三丁目15番33号  
中央三井信託銀行株式会社 名古屋支店証券代行部  
TEL. 0120-78-2031 (フリーダイヤル)
  - **同取次所** 中央三井信託銀行株式会社 本店及び全国各支店  
日本証券代行株式会社 本店及び全国各支店
  - **公告方法** 電子公告によります。ただし、やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
- 公告のホームページアドレス <http://www.daikoku.co.jp/>

### 〈お知らせ〉

住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、株主名簿管理人のフリーダイヤル0120-87-2031で24時間受付しております。

### IR情報メール配信サービスを開始

当社は、投資家の皆さまに対して電子メールによるIR情報配信サービスをスタートさせました。ご登録いただいた方々に当社ホームページ (<http://www.daikoku.co.jp/>) に新しい情報が掲載されたことをお知らせします。

ご希望の株主さまは、当社ホームページにアクセスした後、「IRメール配信ご登録」ボタン、またはディア・ネットサービスホームページ (<http://www.dinet.jp/6430>) から、簡単にご登録 (無料) いただけます。



〒450-8640 名古屋市中村区那古野一丁目47番1号 名古屋国際センタービル2階

TEL(052)581-7111 (代表)

ホームページ <http://www.daikoku.co.jp>